☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ 輝く地域の星となれ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

報道で見る氷上西高　2017

神戸新聞　平成３０年１月１４日（日）

氷上西高生整備に活躍

青垣いきものふれあいの里　観察林を手入れ

青垣いきものふれあいの里が、氷上西高の生徒をボランティアに招く「地域の星☆緑プロジェクト」の初回を5日、同施設で開いた。1、2年生の男子15人が参加し、寒空の下、フィールド（観察林）の整備に従事しながら、野生動物との共生について考えた。

フィールド上部の国有林部分から雨と一緒に土砂や落ち葉が流れ込み、鹿柵のメッシュに引っかかるように堆積、柵を圧迫することから、これら堆積物を取り除き、柵が傷むのを未然に防ぐ作業と、土砂の流出を食い止めるため国有林部分で切りぼかしにされた間伐材を斜面と平行になるように並べ「木のダム」づくりに取り組んだ。堆積物の除去ではフォークや備中鍬を使い、「木のダム」づくりでは急こう配の山にふらつきながら、重い木を運んだ。

間伐された木を運び「木のダム」を作る氷上西高生たち＝青垣町山垣で

鹿柵で囲まれたフィールドはササなどが生い茂り緑があふれているのに対し、柵外の国有林部分はシカに食べられ草木がないといった状況などを目の当たりにした。

生徒たちは「鹿柵を境に、全く山の環境が変わっていて驚いた。柵や山の環境を守る活動の大変さや大切さを知った」などと話していた。

大西毅正同施設長は「若い力のおかげで助かった。こういった活動を通し、地域で活躍する人材の育成のお手伝いができたら。今後も取り組みを継続したい」と話していた。